

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	グループホームひだまり ユニット名:3階		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成25年7月27日	評価結果市町村受理日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail:1.2012.022_kani=true&lijyosyoCd=3071100279-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気づくりと利用者方が、日々笑顔で穏やかに生活できるように支援しています。気分転換の外出は、買い物・ドライブ・散歩・外食・各娯楽施設見学などで、その日の状態に合わせて支援し、懐石料理や手作りおやつなど一緒に作り喜んで頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>3階建ての建物の2階、3階がグループホームであり、1階にデイサービスが併設されている。個人のニーズと残存機能を考慮し、その人らしい生活が送れることを大切にして、個別援助に力を入れている。おやつを作ったり、誕生会のすき焼きを作ったりすることに喜びを感じ、個々の力を発揮できるよう支援している。また、入居者の笑顔を引きだせるよう、まず、職員が笑顔で温かく見守ることを心がけている。入居者同士がお世話したり、されたりいたわり合う姿も見られ、家庭的な雰囲気の中でおだやかに過ごせる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の笑顔と利用者方の思いを会議で話し合い理念の共有につなげています。	笑顔を基本理念とし、どうしたら喜んでもらえるか、笑顔を引き出せるか、職員が個人を尊重しながら笑顔を誘う声かけをしている。朝のミーティング時情報交換し、共通の姿勢でケアに生かしている。	さらに、もう一度地域密着型サービスの意義を職員間で話し合い認識を深め、どのように関わっていくかを関連づける工夫を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者方の重度化に伴い、日常的に交流はできていないが近くのスーパーの買い物時などの会話などはできている。	地域の人に向けた介護教室で認知症対応について良い例、悪い例を劇で表現し、良い反響があった。地域への発信により事業所への理解も徐々に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	半年に一度デイサービスとともに介護教室で認知症講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しい利用者様の家族様を呼び、新しい意見を聞きサービスの向上に努めています。	参加しやすいように、日曜日に設定したり、家族には毎回案内を送付している。最近は見取りについてのことが議題に度々挙げられ、参加者の意見を事業所の方針に反映できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂き、アドバイスや意見を聞き参考にしています。	市の担当者に事業所の現状を説明したり、相談したり、意見を求められたり、関わり合いが多く成されている。運営推進会議にも担当者が毎回参加し、介護教室開催の協力も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいます。が、玄関の鍵は利用者の希望時のみ開錠し、夜間の危険時のみベットの柵を家族様の了承を得て使用しています。	ドアを開けるとすぐ階段で家人からの要望もあり、危険防止に施錠しているが、入居者の気持ちに負担を与えないよう臨機応変に対応している。また、言葉による拘束も無いよう注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員虐待防止について理解し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一名が制度を利用していますので活用、理解し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、訪問時にも不安や、疑問などを聞き、説明、納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問が困難な家族様とは、電話報告をし意見を聞き、会議にかけ運営に反映させている。	意見や不満など事業所以外にも表す場所がある事を説明している。来訪時や電話で聞いた意見なども速やかに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度上司、部下との話し合いし、意見や提案を聞き反映させています。	日頃から直接上司に意見や提案を言い易い雰囲気環境である。1ヶ月に1回スタッフ会議で出た意見は処遇会議やケアプランに生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課にて、実績の評価、今期の目標、自由記入により条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や、会議時の勉強会にてトレーニングをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の参加や同法人内のグループホームと相互実習等の活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の出来る事、出来ない事、背景シート、好きなもの、嫌いなもの、など記入して頂き、本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は連絡を密にし、不安や要望をきいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーの意見や、退院計画書、看護サマリーなどで、支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒につくり、後片づけを一緒にし、花を植え育てともに生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に訪問、外食、外出を楽しまれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流は主に面会だが、家族様の協力もえられている。	買い物に行くと顔なじみの店員が声を掛けてくれたり、デイケアを利用する知り合いが立ち寄り、来訪しやすい雰囲気ではあるが、2階、3階ということもあり地域住民が上まで上がって来ることは殆んど無い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせ、リビングの椅子の場所の提供に配慮し、利用者方同士が、かわりが持てる用に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人入所後や、他施設入所後も面会で状況は把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを生活シート上にひらい、記録し職員全員で共有し、プランに反映させています。	生活シートに本人や家族の思いや意見の言葉をそのまま記録し、職員が共有してケアプランに反映している。入居者の日常の言動の変化にも気をつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別背景シートやセンター方式を利用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや生活シートの活用で日々把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題の把握をわかりやすく記録し処遇会議にかけ、家族様にもわかりやすく説明できるように計画を作成している。	入居者の視点に立ってその人らしく暮らせるためサービス計画書に記録し、変化に応じられるよう毎月見直している。職員が共有でき、ケアに生かせるように具体的な分かりやすい計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに詳しく記録し、計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	PT利用や、サービスの多機能に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の防災訓練の参加や、中学生の体験学習の受け入れなどで、安全で楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や、緊急異常時に気軽に相談できるかかりつけ医を確保している。	通院は同行の家人が職員が記録した入居者の状態が書かれた書類を持参し、スムーズに受診出来るように支援している。緊急時は生活シートを持参し職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人訪問看護師に24時間対応してもらい、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、随時病院関係者に連絡を取り、状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の話し合いは家族様や、スタッフとも看取りなども含め、会議で話し合いを常にしています。	日頃から本人や家族の思いや意見を聞き、急変時は家人と納得するまで話し合いをし、現在は関連の施設や病院に転移の支援をしている。運営推進会議での意見等を考慮して将来に備え看取り指針の作成に取り組んでいる。	グループホーム内の高齢化が進む中、今後の状況変化に伴い、管理者、職員で話し合いがなされ、運営推進会議にも取り上げられているが、早急に看取り指針が作成されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に緊急対応マニュアルを話し合い、消防の救急訓練に参加し、初期対応の実践を訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の指導を受け、避難や食料の確保をしている。	どうしたら一番安全かを常に考え、入居者も参加し、関連施設と合同で年2回防災訓練をしている。入居者も消火器を使用する事もある。津波を想定した訓練もしている。	今後更に地域との連携を深め協力関係や支援体制を築く事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者の希望に合った介助の言葉かけや対応をしている。	羞恥心に配慮し、いやがる事はしないという方針でケアに当たっている。個人に合ったプライバシーを考え人格を尊重し、言葉やケアに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の買い物付き添いは、自己にて購入できるように支援し、思いを聞き、自己決定できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にして、希望に添える用支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の協力や、スタッフのネイルアート、整容の声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者方が出来る事に合わせて買い物、食事づくり、後かた付けを手伝えるよう支援している。スタッフも一緒に会話しながら同じ食事をしている。	食卓を拭いたり、食事の一品を作ったり、後片付けをしたり、残存機能を生かしつつ入居者の喜びを尊重している。ほのぼのとした雰囲気の中、笑いを交えた会話で職員と共に同じ食卓で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量の管理や栄養バランスに注意し飲みたいときに飲めるように部屋に水やお茶を置き、飲み物も好みに合わせ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア指導、介助、週一度のポリデント消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや車いすでも、トイレ誘導やPWC介助をして、排泄の自立につなげています。	リハビリパンツを使用しているも排泄の自立を促し、トイレで排泄できるよう支援している。外出しない人は布パンツを使用している。鍵のかかるトイレと鍵のないトイレがあり、好きな方を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化や排便チェック表にて、マグミット、下剤の管理をし予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングで入浴をしている。スタッフ二人介助の時もある。	好きな時間に入浴出来るように支援している。手作り入浴剤を使用し楽しい入浴になるように配慮している。入浴を嫌う人には何度も声かけをし、入浴し易い雰囲気を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルのお薬内容に、目的、作用を記入し、薬はスタッフが管理し手渡し、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し、生活の中に役割を取り入れ各利用者の気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外食、ドライブ、買い物等、車いすでの外出にも配慮し支援している。保育所の運動会の見学などにも出かけている。	販売車がある日は外へ出てパンを買い、2階、3階で声を掛け合って「手作りお茶会」を楽しんでいる。回転すしやバイキング、水族館に行くこともある。デイルームで日曜日カラオケをする事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ちたい人は、自己にて管理できるお金を持っている。服購入などは自己にて払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり外食、外出を楽しまれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着ける場所づくりを心がけ日々工夫をしています。	採光も良く、広々としている。窓からは季節を感じる視界が広がり、落ち着いた雰囲気である。食卓の背向かいにソファが置かれ、食後くつろげる空間となっている。共同で創った作品が飾られ和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では思い思いに過ごせるように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思うような居室で思うように過ごせるようにしています。	明るく広々として、クローゼットも備え付けられている。家庭で使用していた馴染みの物を持ち込む人もおり、また、手作りのカレンダーも飾る等、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を把握し、生活シートに記入、役割を取り入れ個別援助計画を作成しています。		